

特別展

# 尾張徳川家の雛まつり

平成26年2月8日(土)～4月6日(日)

主催 徳川美術館・中日新聞社



かねひめ

## 矩姫さまの雛人形・雛道具

矩姫(貞徳院・1831～1902)は尾張家十四代当主慶勝の夫人で、福島・二本松の丹羽長富の三女として生まれ、嘉永2年(1849)にお輿入れしました。

矩姫の雛人形は、束帯姿3対、直衣姿1対、狩衣姿1対の有職雛(公家の装束を正しく考証して作られた雛人形)で、高さはおよそ30センチあります。当時製作された大名家のお雛様のなかでも、ひときわ格調高い作品です。

また、矩姫の雛道具は、梨子地に松竹梅の折枝と唐草文様を配し、銀の金具を打った豪華なつくりで、80点余りが伝えられています。

## 内裏雛飾り

有職雛(束帯姿・直衣姿・狩衣姿)

五人囃子(雅楽)

犬張子

松竹梅唐草蒔絵雛道具のうち

貝桶・合貝

冠台

鼻紙台

花瓶・花台

台火鉢 など

五対

一揃

二対

雪洞

源氏物語図屏風

源氏物語 胡蝶・紅葉賀図屏風 俊恭院福君(尾張家十一代斉温夫人)所用

八双のうち

一双

矩姫が所持したもう一組の小さな雛人形です。江戸時代の終わり頃、将軍家や御三家では、雛飾りが大奥の二～三箇所にしつらえられたといわれています。この人形たちの箱には「御内証」の貼札があり、プライベートな場で飾られたと考えられます。

牡丹唐草蒔絵雛道具は、徳川十一代将軍家斉の雛道具と伝えられ、後に由緒あって矩姫が購入したとされています。その真偽は明らかではありませんが、江戸時代の末ごろの雛道具の姿をとどめています。

## 内裏雛飾り

有職雛(衣冠姿・直衣姿・小直衣姿・狩衣姿)

七人囃子(雅楽)・三人官女・隨身

牡丹唐草蒔絵雛道具のうち

芥子雛

賀茂人形

猿まわし

えびす大黒双六遊び

豆賀茂人形 など

五対

一組

一組

## 尾張徳川家伝来の雜道具

きくおりえだまきえ

### 菊折枝蒔絵雜道具

さちぎみ

### ～福君さまの雜道具～

五摂家の筆頭・近衛家から尾張家十一代齊温に嫁いだ福君(俊恭院・1820～40)の雜道具のひとつ。梨子地に菊の折枝を配し、所々に近衛家の家紋である抱牡丹紋と徳川家の葵紋を散りばめたデザインを施し、金具にはすべて銀が用いられています。福君の婚礼調度として伝来する菊折枝蒔絵の諸道具と遜色のない精巧なできばえを示しています。

貝桶 厨子棚飾り 黒棚飾り 書棚飾り 茶弁当 文台・硯箱  
鏡台 払箱 櫛台 源氏筆筒 見台 など

だきぼたんもんちらしまきえ

### 抱牡丹紋散蒔絵雜道具

### ～福君さまの雜道具～

「菊折枝蒔絵雜道具」とともに、福君が所持した雜道具。梨子地に金具と蒔絵によって、近衛家の家紋である抱牡丹紋を配し、金銅製の金具を打っています。菊折枝蒔絵の諸道具と比べ寸法に多少の違いが認められますが、その豪華さと格調の高さに独特の趣きがあります。

貝桶・合貝 乗物 台子皆具・茶坊主人形 香道具 椽・角盥  
碁盤 将棋盤 双六盤 文台・硯 など

しょうちくばいからくさまきえ

### 松竹梅唐草蒔絵雜道具

かねひめ

### ～矩姫さまの雜道具～

矩姫の雜道具です。梨子地に松竹梅の折枝と唐草文様を配し、銀の金具を打った豪華な仕様です。その数は80点余りにおよび、当時の婚礼調度のありさまをよく伝えています。

厨子棚飾り 黒棚飾り 書棚飾り 箏の琴・三味線・胡弓 小袖筆筒  
茶弁当 鏡建 櫛台 耳盤・輪台 椽・角盥  
手拭掛 衣桁 広蓋(大・小) など

ぼたんからくさまきえ

### 牡丹唐草蒔絵雜道具

もとは徳川十一代將軍家齊が日頃愛玩した雜道具で、のちに故あって矩姫が所持したと伝えられていますが、定かではありません。

厨子棚飾り 黒棚飾り 書棚飾り 貝桶 行器 見台  
双六盤 碁盤 将棋盤 懸盤 八代集書物箱  
机 花手桶 御所車 乗物 御所車 など

てっせんからくさまきえ

### 鉄線唐草蒔絵雜道具

徳川美術館に伝えられた最も古い雜道具で、17世紀末から18世紀初頭頃に製作されたと考えられています。

懸盤 碁盤・将棋盤・双六盤

## 尾張徳川家三世代にわたる雛段飾り

徳川美術館の創始者である、尾張徳川家十九代義親の夫人米子(1892~1980)、二十代義知夫人正子(1913~1998)、そして二十一代義宣夫人の三千子(1936~)の三世代にわたる尾張徳川家の雛段飾りです。数組の内裏雛を上段にすえ、三人官女、五人囃子をはじめ、節供の祝儀としてさまざまな方々から贈られた御所人形、毛植え人形などのさまざまな人形、さらに多種多様の道具揃えが並べられ、江戸時代以降の大家の雛段飾りのありかたがよく示されています。

## 秩父宮妃殿下ご遺愛のお雛さまと雛道具

秩父宮妃勢津子さまは、松平(会津)恒雄氏の長女で、幕末に活躍した松平容保のお孫さんにあたられます。昭和3年(1928)に秩父宮雍仁親王と結婚され、平成7年(1995)に薨去されました。妃殿下ご愛蔵の品々の一つであった雛人形や雛道具は、形見分けとして、実の妹である尾張徳川家二十代義知夫人の正子さまに遺賜され、平成8年に正子さまより、勢津子妃殿下とも由緒の深い徳川美術館に御寄贈いただきました。

皇室のお雛様にふさわしく、男雛の冠は立 纓で、装束は天皇のみに許される黄櫨染の御袍を着用しています。

## 内裏雛飾り 高橋博子所用

尾張徳川家二十代義知の次女・高橋博子さま(1938~)が愛蔵した内裏雛飾りです。雪洞や懸盤などの雛道具には、二葉葵の文様があしらわれています。

## 合 貝

貝合わせは蛤の身と蓋を合わせる遊びです。二枚貝は特定の一片としか合わないため、合貝とそれを納める貝桶は、貞節の象徴として婚礼道具の中で最も大切にされました。

合貝	月に芒蒔絵貝桶 附属	徳川義直(尾張家初代)・京姫ほか筆	江戸時代	17世紀
合貝	菊折枝蒔絵貝桶 附属	俊恭院福君(尾張家十一代斉温夫人)所用	江戸時代	19世紀

## さまざまな人形・雛道具

犬張子(犬笥)	建中寺蔵	二対
色絵唐子人形	貞徳院矩姫(尾張家14代慶勝夫人)所用	一組
染付食器		一組
市松人形	瀧沢光龍斎作 徳川正子(尾張家20代義知夫人)所用	一体 など

## 特 別 公 開

## 皇女和宮ゆかりの御所人形や雛道具 徳川記念財団所蔵

御所人形	はいはい人形	銀製飾物	桜楓に鞠
御所人形	葵紋付着衣座姿	銀製飾物	垣根に梅
御所人形	冠菖蒲文纏着衣座姿	銀製飾物	桜に楽器
手回り品		銀製飾物	水盤に藤
毛植の猫	明治天皇下賜		

## お雛様 Q&A

### 雛の歴史

雛祭りは、古代中国において三月の最初の巳みの日に、水辺に出て穢けがれや災わざわいを祓しう行事が起源と考えられています。この行事は、古く7世紀には、わが国にもたらされ、上巳じょうしの節供として三月三日に行われるようになりました。平安時代には宮廷の年中行事として定着し、この日に曲まが水の宴を催したり、桃酒を飲んだりしました。

また自分の罪つみや穢けがれを、息を吹きかけたり身み肌みにすりつけて人形に託し、水辺に流す風習がわが国の俗信仰として古代からありました。これとは別に『源氏物語』をはじめとする王朝時代の文学作品の中には、幼い子どもたちの遊びに用いられた人形を「ひいな」と呼んでいます。これらの風習が何時の頃からかは明らかではありませんが、三月三日の雛祭りとなったと考えられています。

江戸時代になると、次第に雛祭りは盛んになっていきました。今日みられるような雛祭りの形式は、江戸時代の初頃に形成されたと考えられています。

### 有職雛ってなあに？

「有職ゆうそく」とは、公家社会のさまざまな決まり事を指す言葉です。「有職雛」は、家柄や季節などによって異なる公家の着る装束を正しく考証して作られた雛人形をいいます。

有職雛は、男雛おびなの着ている装束の種類によって、「束帯そくたい雛」「直衣のうしびな雛」「狩衣かりぎぬ雛」とも呼ばれます。束帯は公的な儀式の際に着用される礼服、直衣は上級の公家のちょっと晴れがましい平常服、狩衣はカジュアルな装いです。それにあわせて、女雛めびなの装束も、正装の十二単じゅうにひとえや日常うちきの袷あじなどが着用されています。

### 男雛と女雛の並べ方

伝統的には男雛は向かって右、女雛は向かって左に飾られました。しかし、現在の男雛が左、女雛が右とする飾り付けは、昭和天皇の即位式以降といわれています。昭和3年(1928)に昭和天皇の即位式の時の御真影を参考にして、東京の人形業界がお雛さまの飾り位置を置き換え、普及したためだといわれています。皇室が明治時代に導入した西洋のマナーに基づいています。

### 五人囃子には

五人囃子には「雅楽ががく」と「能楽のうがく」の二通りがあります。雅楽の五人囃子では、向かって右から鞆鼓がっこ・太鼓たいこ・笙しょう・篳篥ひちりき・笛ふえ(あるいは鞆鼓・太鼓・鉦鼓・笙・篳篥)が一般的です。七人囃子・八人囃子などの場合も見受けられます。能楽では、謡うたい・笛のうかん(能管)・小鼓こつづみ・大鼓おおかむ・太鼓たいこの順で並べられます。

### 御所人形

桐材をベースに胡粉こぶんを塗り重ね磨き上げて仕上げられた人形です。子どもの穢けがれのない表情が表されています。災はらいを祓はらい、福を招く意味あいが込められています。

### 犬張子ってなあに？

犬張子いぬばこは人の顔に似せた顔をした犬をかたどった一對の置物あまがっで、犬笛とも呼ばれます。子どもが誕生すると、その無事の成長を祈って、天児あまがっと呼ばれる穢けがれや災わざわいを祓はらう意味あいの人形とともに枕元に置かれました。また婚礼の際にも持参され、生涯大切にされました。